

1. はじめに

今月に入ってから、ロチェスターでは日を追うごとに寒さが厳しくなると同時に雪が積もり始めてきています。そして、12月の頃にはニューヨーク州に位置する複数のスキー場がオープンしました。その際、私は友人と一緒にスノーボードをするために、Hunt Hollow というスキー場に行ってきました。当時の様子を図1に示します。その日は、天候に恵まれていたので、私たちは気持ちの良い風とともにスノーボードを楽しむことができました。また、ロチェスター工科大学（以下、RIT）では12月中旬から冬休みを迎えました。冬休み中のある一定の期間（12月20日～1月7日）、Residence Hall Aに住んでいる学生たちは寮に入ることが禁止されています。そのため、私はRIT Inn という大学が経営する宿泊施設に滞在しています。12月分の報告書では、私が履修している授業内容及びアメリカでの暮らし等を報せます。



(a) 人力で引くソリ



(b) 休憩

図1. スキー場で撮った写真

2. 授業内容

2.1 秋学期の授業

2.1.1 Advanced Writing & Reading

12月上旬の授業では、学生たちは先生が指定した記事や論文の文献解題を行ったり、学生同士でお互いの文献解題を評価し合ったりしました。文献解題とは、引用する記事または論文の参考文献を記述し、その文献の要約と読み手の評価を書き加えたものを意味します。授業中、先生は学生たちに「学術的なことを話すもしくは書く際には、なるべく同じ言葉を重複して使わないようにしてください。」と言っていました。その理由の1つとして、話し手が相手に対して繰り返し同じ言葉を使うと、聞き手が話者を幼稚だと判断することにあります。2年前に、私の指導教員である宮田俊弘教授も私に「文章を見れば、その人の人となりが見えてきます。」と仰っていました。当時、私はその意味が分かりませんでしたが、今なら理解することができます。そのため、私は、英語の文章を構成する場合だけでなく日本語の文章を書く時にも、同じ表現を何度も使用しないように心掛けています。言葉の重複がない文章を作成するのは容易ではありません。特に、私にとって第2言語である英語を用いて長文を組み立てていく際には、私が知っている英語の語彙数がまだ少ないので、苦労しています。また、12月中旬に、このクラスでは期末試験

が行われました。その試験内容は、出題された記事と論文をそれぞれ文献解読するというものでした。試験時間が1時間あったので、私は落ち着いてテストを受けることができました。

2.1.2 Computer Science I 141-12 : Lecture/Lab

この講義を受講している学生たちは、今月の初旬までにチームプロジェクトの課題を提出しなくてはなりません。そのため、私たちは班ごとに分かれて、プロジェクトの課題である「入力した文章のスペルチェックを自動で行ってくれるアプリケーションの作成」に挑みました。図2に、私の班が作成したアプリケーションを示します。最後の週の講義では、学生たちはFeature Hashingを勉強したり、期末試験を受けたりしました。Feature Hashingとは、高速かつ省メモリな特徴量をベクトルに変換する手法です。また、期末試験といっても、試験範囲は11月下旬から12月下旬に講義で学んだ内容だけでした。試験の範囲が広くなかったため、私はテストの問題をそこまで苦労せずに解けました。

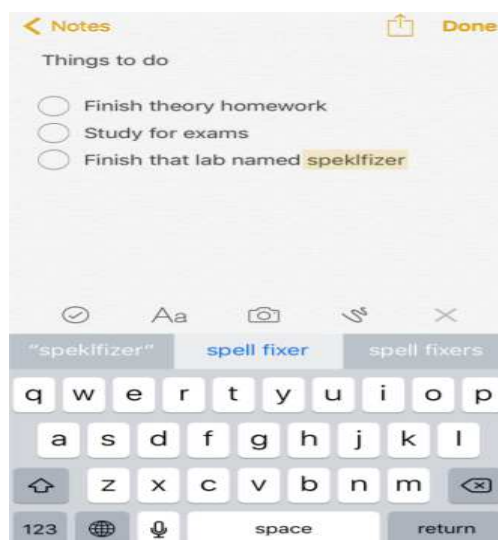


図2. 作成したアプリケーション

2.1.3 Advanced Speaking & Listening

今月、本科目では、受講生たちは二人でペアになって約10分間のディベートを行いました。私たちはディベートのテーマを自由に選択することができたので、私は中国人の学生と一緒に「自動車の安全性」に関して討論をしました。私は英語でディベートをやったことがなかったため、今月に行われた授業を通して色々なことを学ぶことができました。特に討論の際、私は自分の意見を押し通すばかりではなく、相手の意見を考慮した上でその意見にかぶせて説明を行うことが重要だと感じました。また、12月上旬に、学生たちはListeningの期末試験を受けました。リスニングのテストには、「銃社会のアメリカが抱える問題」という撮影時間が35分以上ある動画が使用されました。試験中、動画が一度しか再生されませんでしたが、私たちは聞き取った情報を解答用紙とは別の紙にメモすることができました。そして、学生たちはそのメモを見ながら問題に解答していました。

2.1.4 Advanced Inquiry-based Lang tasks

このクラスでは、期末試験がありませんでした。その代わりに、学生たちは12月中頃までに論文を完成させる必要がありました。論文の題目には、11月に学生たちがRITでポスター発表をした際のテーマが用いられました。先生は、私が作成したポスター及び論文を高く評価してくれました。春学期に、私はこの科目を再度履修する予定でした。しかし、この授業を担当しているLisaさんが私に「あなたにはポスターや論文を作成する能力があるので、あなたは再履修する必要はないです。」とってくれました。そのため、私は本科目を春学期に再び履修することをやめました。

2.1.5 Advanced Lang Analyze & Accuracy

12月初旬に、学生たちはPassive Voiceを学んだり、受動態に関する小テストを受けたりしました。主に、英文を能動態から受動態に変換させることを行っていました。また、12月中旬に期末試験もありました。このクラスでは中間試験がなかったため、秋学期に学んだ全ての内容が期末試験の問題として出題されました。そして、出題された問題の中には、Essayも含まれていました。Essayを書く際、学生たちは指定されたテーマに関して、300~350文字で記述しなくてはなりません。加えて、私は短い時間の中で英語を用いて論理的な長文を書くのが得意ではないので、Essayを記述するのに手古摺りました。

2.2 春学期の授業申請

12月に、Associate Director of Curriculum & InstructionのKristineさんが私に「もしあなたがRITの講義をもっと履修したい場合、私が許可します。」と仰ってくださいました。そこで、私は11月に申請していた春学期の授業科目を一部変更することにしました。表1に、私が春学期に履修する予定の授業スケジュールを示します。

表1. 一部変更した春学期の授業スケジュール

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
8:00	Discrete Mathematics 8:00 - 8:50	Discrete Mathematics 8:00 - 8:50	Discrete Mathematics 8:00 - 8:50	Discrete Mathematics 8:00 - 8:50	
9:00	Graduate Writing & Reading 9:00 - 10:50		Graduate Writing & Reading 9:00 - 10:50		
10:00					Graduate Writing & Reading 10:00 - 10:50
11:00	Graduate Spoken Communication 11:00 - 12:50		Graduate Spoken Communication 11:00 - 12:50		Graduate Spoken Communication 11:00 - 12:50
12:00					
13:00					
14:00	Beginning Chinese I 14:00 - 14:50	Beginning Chinese I 14:00 - 14:50	Beginning Chinese I 14:00 - 14:50	Beginning Chinese I 14:00 - 14:50	
≈ 16:00	Beginning Spanish IA 16:00 - 16:50	Beginning Spanish IA 16:00 - 16:50	Beginning Spanish IA 16:00 - 16:50	Beginning Spanish IA 16:00 - 16:50	

2.3 学習・研究時間

第1週：30時間 第2週：31時間 第3週：25時間 第4週：30時間 ※授業時間を除く

3. アメリカでの暮らし

3.1 RIT Inn

前述で述べた通り、私は冬休みの間だけRIT Innで生活しています。私の部屋の様子を図3に示します。私と生活しているルームメイトはトルコ出身で、彼は経営学専攻の大学院生です。私のルームメイトは、5年前からアメリカに住んでおり、アメリカで学士を取得しました。彼は経営学の大学院修士課程を修了後、博士課程に進学する予定です。そして、彼の夢は大学の教授になることです。私は彼と将来について語り合うことで、私も自分の夢のためにもっと努力しようと思えました。また、この宿泊施設内には、レストランやバー、室内プールなどがあります。加えて、洗濯機や製氷機が完備されています。RIT Inn公式ホームページのUniform Resource Locator（以下、URL）を下記に示します。

<https://www.rit.edu/ritim/>

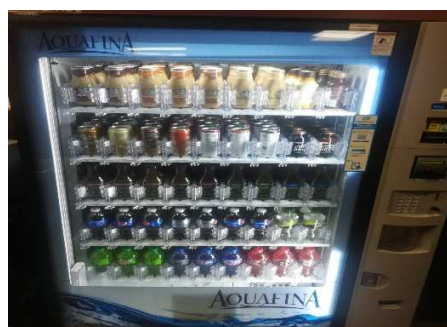


図3. 私が住んでいる部屋の様子

3.2 Meal Plan

RITは、学生たちにいくつかのMeal Planを提供しています。そのため、学生は自分に合うPlanを学期ごとに申し込むことができます。現在、私はTiger10というMeal Planに加入しています。Tiger10に入るには、RITへ\$2,724を支払う必要があります。このプランに加入すれば、\$750のFood Debitと毎週10回のMeal Plan、毎週5回のMeal Optionが付与されます。学内にあるコンビニエンスストアや食堂、スターバックスなどで食べ物を購入する時に、Food Debitを使用することができます。加えて、図4(a)に示す自動販売機で飲み物を買う際にも、Food Debitが使えます。但し、コンビニエンスストアでシャンプーや紙コップなどの日用品を購入する場合には、Food Debitを使用することはできません。使いきれなかったFood Debitは、次の学期にも利用することが可能です。また、1回分のMeal Planを消費することによって、利

用者はGrace Watson Hall内にある食堂で食事を1回とれます。つまり、私が加入しているPlanでは、その食堂を毎週10回だけ利用できるということです。食堂やコンビニエンスストア、カフェで食べ物を購入する際に、1回のMeal Optionを消費することで\$8.5分の会計を済ませることができます。Meal Optionを1回利用したら、Meal Planも1回使用した扱いになります。言い換えれば、残りのMeal Planが0回の場合にはMeal Optionを使うことができません。Meal PlanとMeal Optionの回数は、毎週の日曜日にリセットされます。そして、図4(b)に示すRIT Dining Plannerというアプリケーションを用いれば、残りのFood DebitやMeal Plan並びにMeal Optionを確認することが可能です。RITの学生証とMeal Cardが一体となっています。したがって、これらのサービスを使用したい時には、店員に学生証を提示する必要があります。



(a) Food Debitが利用できる自動販売機

Tiger Bucks	
Summary	Add Money
Welcome, Hiroki Log	
Account Summary	
Tiger Bucks:	\$0.00
Food Debit:	\$1,169.39
Meal plan:	10
Meal option:	5

(b) RIT Dining Planner

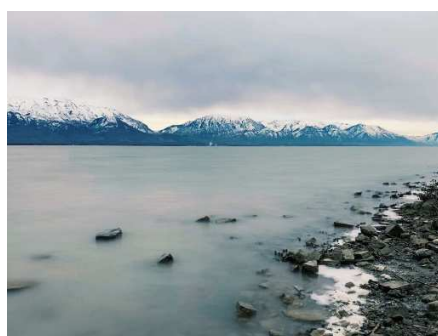
図4 Meal Plan

3.3 旅行

12月中旬に、私はCornell Law School (以下、CLS)に通う友人と一緒に、ニューヨーク州に位置するSaratoga Springsへ旅行に行きました。私は彼と合流した際に、彼にCLSを案内してもらいました。当時の様子を図5(a)に示します。旅行中、私たちはSaratoga LakeやSaratoga Race Courseなどを訪れました。冬にSaratoga Lakeを訪れた場合、図5(b)に示す景色を楽しめます。Saratogaは鉱泉だけでなく競馬の街としても有名です。



(a) CLSの図書館



(b) Saratoga Lake

図5. 旅行中に撮影した写真

3.4 大学の寮で行われたパーティー

秋学期の最終日の夜に、私たちが住んでいる寮ではパーティーが行われました。学生たちは、各自で持ち寄ったお菓子やピザなどをシェアして食べました。そして、みんなでカードゲームをしたり、音楽を流して踊ったりしていました。パーティーの様子を図6に示します。また、この日、パーティーに参加した学生たちは各自で持ち寄ったプレゼントを交換しました。私は、図6に示したキャップをかぶっている Carl から Rochester Red Wings の T シャツをもらいました。Rochester Red Wings とは、ニューヨーク州ロチェスター市に本拠地をおくマイナーリーグのプロ野球チームです。



図6. パーティーの様子

3.5 クリスマスイブとクリスマス

クリスマスイブとクリスマスの日、私は Sean の家で過ごさせてもらいました。彼の実家がニュージャージー州にあるので、私たちは飛行機で向かいました。ニュージャージー州は、アメリカ合衆国東部の大西洋沿岸にある州です。Sean の父親は過去に日本で仕事をしていたため、彼は日本語を話せます。私は彼が日本語を喋れることを知らなかったため、彼と初めて会話した時に大変驚かされました。クリスマスイブに、Sean の家には彼の家族や親戚、友人が集まりました。その日、5 人の子供たちは彼らの母親と一緒にお菓子の家やサンタクロースに食べてもらうためのクッキーを作っていました。図7(a)に私たちが作ったお菓子の家を示します。私たちは夕食に七面鳥やマッシュドポテト、キャッセロールなどを食べました。夕食後には、みんなで近くの教会へ行行って礼拝を捧げました。教会に行った際に、牧師からお菓子のプレゼントをもらいました。礼拝の後に、Sean の祖父が家で子供たちに「サンタクロースの物語」を話してあげていました。子供たちは2階の寝室に行く前に、ツリーの下に自分たちで作ったクッキーや牛乳を置いていきました。大人たちは彼らが寝たのを確認してから、クローゼットや車のトランクに隠していたプレゼントをツリーの下に置きました。ちなみに、私はRITのキャンパス内にあるDigital Denでプレゼントを購入していました。そのため、私もツリーの下にプレゼントを置かせてもらいました。その様子を図7(b)に示します。また、私と大人で子供たちが用意したクッキーを食べました。クリスマスの朝、子供たちはツリーの下にある沢山のプレゼントを見て興奮していました。私は、子供たちの喜ぶ姿を見て嬉しい気持ちになりました。そして、子供たちは、それらのプレゼントを仲良く分け合っていました。私は、クリスマスイブとクリスマスの期間を Sean の家で過ごすことで、日本とアメリカの文化の違いを実感することができました。



(a) お菓子の家



(b) サンタクロースからのプレゼント

図7. Sean家での生活

3.6 広報活動

私はアメリカでRITのスタッフに勉強や生活面で度々助けられています。そのため、私はRITに恩返しをしたいと思っていました。そんな時、12月の初旬に私はRITのオフィスから「RIT Ambassadorのメンバーになりませんか？」という図8に示すメールを頂きました。現在、私は部活動だけでなく、このような活動にも参加しています。この活動の内容は、自身のRITでのキャンパスライフをSocial Networking Service (以下、SNS)で紹介および出身校で発表すること等です。そして、自身の出身校で発表する際にはRITから大学のグッズや資料を提供してもらえます。来年の5月に金沢工業大学で行われる帰国報告会でも、それらを付与してもらえることになっています。

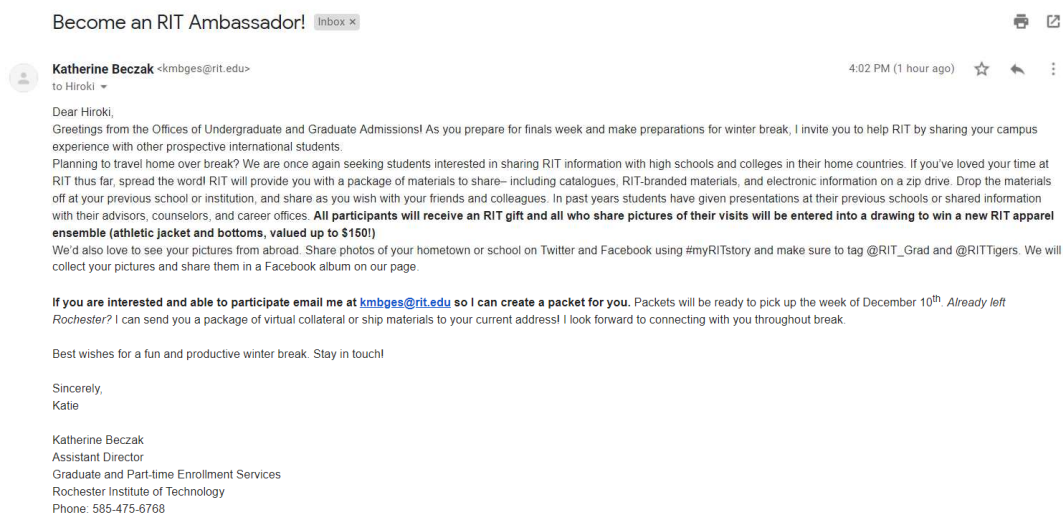


図8. RITから頂いたメール

4 おわりに

金沢工業大学のご関係者各位には今年もご迷惑ご心配おかけして、公私ともに大変お世話になりました。今年一年、誠にありがとうございました。2019年も何かとご迷惑をおかけするかもしれませんが、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願いします。

以上で12月分の月例報告を終了します。